



2016  
かみありづき  
神在月

# 松江水燈路

すいとうろ

昨年8月29日、「松江開府の祖」堀尾吉晴公（大口町出身の武将）のご縁で、大口町と姉妹都市提携を締結した島根県松江市。月がきれいな10月は、全国の神様が出雲大社（島根県出雲市）に集まるといわれているため、世間一般では、「神無月（かなづき）」といいますが、島根県では「神在月（かみありづき）」といえます。



この神在月に松江市では、松江城・その周辺で「松江水燈路」（10月1日から31日 土・日・祝がメイン開催日 今年で13回目）が開催されます。今年は大口町も参加。広報8月号で出品作品を募集したところ、初めての取り組みにもかかわらず、529枚の作品が集まりました。作品の和紙は、地元の福祉施設の皆さんの手により、1週間かけて行灯の木枠に4枚1組で貼り付けられます。

大口町の行灯133基は、武家屋敷の前にひろがる通り「塩見縄手」に並べられ、日没と同時にロウソクの炎を点灯。松江城二ノ丸には、一般参加の行灯の他、アーティスト部

門の行灯も並びました。大口町からは遊字アート作家の吉田美穂さんの作品が出品され、他の作品とともに多くの観客の目を引いていました。

国宝・松江城天守が鮮やかに浮かび上がり、光と影が織りなす幻想的な風景が広がりました。

イベントを通して繋がるご縁。大口町の皆さん一人ひとりが、イベントをきっかけに姉妹都市である松江市の歴史や文化、生活に思いを馳せ、つながりを大切にしていけたらいいなと思えました。

（松江水燈路ボランティア活動参加者）



▲吉田美穂さんの作品（下段中央）



塩見縄手



松江城 二ノ丸